

“海の限界”シンポジウム プログラム

12月21日 1日目プログラム

オープニング（日本財団）

- 1:00-1:45 挨拶 笹川陽平（日本財団会長）
ネレウスプログラム紹介 海野光行（日本財団常務理事）
ネレウスプログラムの進捗と展望（日本財団ネレウスプログラム）

テーマ1：気候変動と海

- 2:00-2:20 気候変動と漁業の影響が未来の水産資源に与える影響

ウィリアム・チェン
ブリティッシュコロンビア大学
- 2:20-2:40 気候変動が海洋湧昇に与える影響、特にイワシなどの小型魚種への影響

ライアン・リカクゼウスキー
サウスカロライナ大学
- 2:40-2:45 質疑応答
- 2:45-3:00 休憩

テーマ2：社会環境変化と漁業管理

- 3:00-3:20 漁業による特に食物連鎖などの生態系システムの変化-ヨーロッパの漁業を事例に

ディディエ・ガスカル
アグロキャンパス/フランス

3:20-3:40 気候変動による島嶼国の海洋環境の危機的な変化とその対応

クエンティン・ハニック
ウーロンゴン大学/オーストラリア海洋政策研究所

3:40-3:45 質疑応答

3:45-4:00 休憩

4:00-4:40 ゲストスピーカー

ポール・グリーンバーグ
作家、ニューヨークタイムズコラムニスト

4:40-4:45 質疑応答

4:45-5:00 休憩

5:00-5:30 パネルディスカッション

モデレーター：太田義孝

12月22日 2日目プログラム

1:00-1:10 開始挨拶

テーマ3： 海と健康

1:10-1:30 気候変動による水銀等の海洋汚染物質の魚資源への含有量の変化とその生態系および漁業への影響

エルシー・サザーランド
ハーバード大学

1:30-1:50 魚の消費による栄養摂取の重要性と汚染物質との関連

ローリー・チェン
オタワ大学

1:50-2:00 質疑応答

テーマ4： 海と社会

2:00-2:20 漁業生産における社会的責任-食料安全保障など

ジャック・キッティンジャー
アリゾナ州立大学

2:20-2:40 危機的状況にある魚資源の回復-太平洋クロマグロの資源管理

オンドレ・ブスタニー
モントレール水族館

2:40-2:45 質疑応答

2:45-3:00 休憩

テーマ5： 海とコミュニケーション

3:00-3:20 海の新しいストーリーテリング

ハンソン・ホセイン
ワシントン大学

3:20-3:40 デザイン：人間と海をモチーフとして

サイモン・テイラー/ユーヒ・ナカノ
Tomato Design Collective, AA School London

3:40-3:45 質疑応答

3:45-4:00 休憩

4:00-5:00 パネルディスカッションⅡ：海の限界とは？

モデレーター：太田義孝

5:00-5:20 まとめ：海の限界と未来

太田義孝
ワシントン大学

5:20-5:30 閉会

発表者プロフィール



太田義孝

ワシントン大学 Research Assistant Professor。専門は社会人類学、海洋管理に関わる公共政策。世界各地の海で現地調査と資源管理の学際的研究に従事。ネレウスプログラムの創立メンバーであり、自然科学と社会科学をつなぐ政策ディレクターとしてプログラムを統括する。



William Cheung

ブリティッシュコロンビア大学 Associate Professor。2009年より気候変動による漁業への影響をモデル分析により研究。IPCCに海洋部門の Coordinating Leading Author として参加している。2014年よりネレウスプログラムに科学ディレクターとして参加。



Ryan Rykaczewski

サウスカロライナ大学の Assistant Professor。イワシ等の小型回遊魚を対象として、資源への気候変動の影響についての数理モデル構築を行っている。海流の変化、また、それによる動物プランクトンの増減を理解し、気候変動などの影響も見据えた未来の漁業資源の状況を探ろうとしている。



Didier Gascuel

Agrocampus Ouest の Professor で、漁業・水産科学センターの責任者。現在の研究は、栄養段階に基づく生態系モデルの開発と、漁業管理への生態系アプローチの実施に焦点を当てている。また、政策面では、西アフリカ諸国やヨーロッパの海域における漁業の生態系への影響の評価に携わってきた。



Quentin Hanich

ウーロンゴン大学のオーストラリア国立海洋資源保全センター (ANCORS) の Associate professor であり、漁業ガバナンス研究プログラムを率いている。太平洋島嶼国での漁業管理や海洋保全に関して国際機関と政府の補助を務める。漁業ガバナンス、海洋保全、漁業管理と開発に関するプロジェクトマネジメントにおいて豊富な経験を持つ。



Paul Greenberg

海と環境問題に焦点を当てたベストセラーのアメリカ人作家。彼の著書「鮭 鱈 鱈 食べる魚の未来」は、タイムズ紙から「必要な本」として評価され、2011年には James Beard 賞を獲得している。また、2014年にアメリカの水産消費について「American Catch」を出版し、来年には「オメガの原則：長寿と地球の健康」が海の三部作の完結として出版される。



Elsie Sunderland

ハーバード大学環境学部の環境科学工学 Associate Professor。彼女の研究グループは、地球汚染物質の生物地球化学を研究しており、生態系から地球規模のアプリケーションに至るまで、さまざまなスケールでモデルを開発し、過去および将来の気候変動や環境汚染物質の人間の生態学的健康への影響に関する研究を進めている。



Laurie Chan

オタワ大学の毒物学および環境保健学の Professor。彼の研究は、毒物学、環境健康、栄養、先住民族の環境に焦点を当てている。この研究には、環境的および栄養的汚染物質の代謝、毒性に関与する化学的、生物学的、生化学的プロセス、微量元素欠乏の影響、生態系における汚染物質の影響リスク評価などが含まれる。



Jack Kittinger

アリゾナ州立大の Assistant Professor。コンサベーション・インターナショナルハワイの統括でもある、人文地理学者。社会と海洋環境が直面する複雑な問題を解決しようと沿岸保護活動を行い、人々が資源を利用し、理解し、管理するために、いかに社会、経済、文化が影響するのか調査を進め、特に環境管理やプランニングそして政策に社会科学を用いることを提唱している。



Andre Boustany

モンレー水族館のネレウス研究責任者であり、マグロ研究を通して、科学と政策をつなぐ取り組みに関する実践的な研究を進めている。これまで、太平洋クロマグロに標識を取り付ける等の実地実験を通して、広域移動魚種の生態に関して研究してきた。漁船上で漁業監視員として働いた経験を持ち、数理モデルづくり等情報処理も得意としている。



Hanson Hosein

ワシントン大学、コミュニケーションリーダーシッププログラムのディレクター。元 NBC 特派員、バックパックジャーナリスト、調査プロデューサーであり、エミー賞と海外記者クラブ賞の受賞者である。コミュニケーション技術においてクリエイティブ起業家のパイオニアとして注目されている。



Simon Taylor, Yuhi Nakano(TOMATO)

Simon Taylor は、イギリスのデザイン集団 TOMATO 創立メンバー、ロンドン AA スクール(建築)の講師でもある。

Yuhi Nakano は、現在 TOMATO でデザイナーとして活動。またヘッケルズ UK とともに藻などを利用した海のビジネスイノベーションを進めている。



デザイン集団 TOMATO は、1991 年にロンドンで発足。アーティスト、ミュージシャン、デザイナーから構成されるクリエイター集団。デジタル世紀の先導者としてグラフィック、バーチャルメディア/デザインの最先端を常に走り続けてきた。日本では、テレビ朝日のロゴが有名。

(発表順・敬称略)